

ホライズン ～地平線～

仙台フィルハーモニー管弦楽団 特別演奏会

山田和樹 × 仙台 *vol.5* フィル

シベリウス | 組曲「カレリア」 op.11
グリーグ | ピアノ協奏曲 イ短調 op.16
シベリウス | 交響曲第2番 ニ長調 op.43

ピアノ: キム・ヒョンジュン



【チケット発売日】2017年5月26日(金)

S席 5,000円
A席 4,500円

全席
指定

ユースチケットは各2,000円引
(公演当日25歳未満対象)
未就学児はご入場いただけません

2017
10.22 Sun

15:00 開演(14:15開場)

仙台銀行ホール イズミティ21
大ホール

プ
レ
イ
ガ
イ
ド

チケットぴあ

ローソンチケット

イープラス

藤崎、仙台三越

0570-02-9999(自動音声 24時間受付) [Pコード:331-092]
インターネット(24時間受付)

0570-000-407(オペレーター 10:00-20:00)

0570-084-002(自動音声 24時間受付) [Lコード:21404]
インターネット(24時間受付)

<http://eplus.jp>

【お申し込み・お問い合わせ】仙台フィルサービス 022-225-3934
(平日10:00-18:00) <http://www.sendaiphil.jp/>

主催:公益財団法人 仙台フィルハーモニー管弦楽団 協賛:東北電力株式会社、アイリスオーヤマ株式会社

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

後援:宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、仙台商工会議所、河北新報社、仙台放送局、TBC東北放送、仙台放送、三軒茶屋テレビ、K-B東日本放送、Date fm

このコンサートは東北電力・アイリスオーヤマが協賛しています。

蜜月の時を迎えた山田和樹と仙台フィルが、ついにシベリウスの名作、交響曲第2番に挑む。フィンランドの自然への讃歌と、イタリアで異文化に触れた際の感動が生み出した作品——名作と言われるその所以を、山田ならではの視点で解き明かす。グリーグのピアノ協奏曲に迎える仙台国際音楽コンクール覇者、キム・ヒョンジュンも必聴。北歐の美しく雄大な大地が育んだ2大作曲家の、“自然の中に人生を見る”プログラムが今、紐解かれる。

(正木裕美)

©平田将大



指揮:山田 和樹 YAMADA Kazuki

2009年第51回ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。ほどなくBBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。同年、ミシェル・ブラッソンの代役でパリ管弦楽団を指揮して以来、破竹の勢いで活躍の場を広げている。

2016/2017シーズンから、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督に就任。スイス・ロマン管弦楽団首席客演指揮者、日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、東京混声合唱団音楽監督兼理事長などを務めている。2016年には、実行委員会代表を務めた「柴田南雄生誕100年・没後20年 記念演奏会」が平成28年度文化庁芸術祭大賞、2017年には「山田和樹マラー・ツィクルス」などの成果に対して、第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

これまでに、ドレスデン国立歌劇場管、パリ管、フィルハーモニア管、ベルリン放送響、バーミンガム市響、サンクトペテルブルグ・フィル、チェコ・フィル、ストラスプール・フィル、エーテボリ響、ユタ交響楽団など各地の主要オーケストラでの客演を重ねている。

東京藝術大学指揮科で小林研一郎・松尾葉子の両氏に師事。メディアへの出演も多く、音楽を広く深く愉しもうとする姿勢は多くの共感を集めている。ベルリン在住。



ピアノ:キム・ヒョンジュン KIM Hyun Jung

第6回仙台国際音楽コンクール優勝。2010年パデレフスキ国際ピアノコンクール2位及び審査員特別賞、最年少出場者となった2010年KBS音楽コンクールでグランプリ受賞、2008年ショパン国際ピアノコンクールin ASIA優勝など数々のコンクールで高い評価を受けている。

10歳でソウルシンフォニーと共演し、ソリストデビュー。その後も、東京交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、水原市立交響楽団等、多数のオーケストラと共演。また、クムホ・アジアナ文化財団によるヤングアーティストコンサートリサイタル等にも出演。

現在、ジョンズ・ホプキンス大学ピーボディ音楽院に在籍し、ムン・ヨンヒに師事している。

仙台フィルハーモニー管弦楽団 Sendai Philharmonic Orchestra

1973年創立。1983年芥川也寸志が音楽総監督に就任して現在の礎を築き、外山雄三(前音楽監督)が飛躍的に技術を向上させ、パスカル・ヴェロ(現常任指揮者)がアンサンブルにさらに磨きをかけている。

東日本大震災では数ヶ月にわたり活動を中止せざるを得ない状態になったが、音楽を被災者のもとに届ける活動を展開し、内外に大きな反響を呼んだ。

本拠地日立システムズホール仙台コンサートホールでの「定期演奏会」、さまざまなジャンルとの共演による「サマーフェスティバル」、宮城県内各地で開催される「マイタウンコンサート」、日本人作曲家を紹介する「日本の現代作曲家」など多彩な公演を繰り返しているほか、文化庁による全国小中学校訪問など年間100回を超える活動を展開している。